

RACコードについて

- RACコードはクロップライフジャパンが所属する国際団体CropLife International(CLI)の抵抗性対策委員会が取りまとめたものです。同委員会が認定していない有効成分は本表から除いています。本表では農薬名を記載しましたが、登録農薬のうち販売されていない品目は除いています。
- 表中の農薬名は剤型(水和剤、粒剤など)や屋号(理研、SDSなど)を省略しています。また、括弧書きしたものは混合剤の名称です。

IRACコード表 日本版(2025年8月)(芝用殺虫剤限定)



色分けは、その殺虫剤による発現症状、効果発現の速さおよび他の特性を判別するための一助として、作用機構と影響をうける生理機能のおおまかな分類とを関連付けたもので、抵抗性マネジメントの目的のためではない。抵抗性マネジメントのためのローテーションは、作用機構グループの番号にのみ基づくべきである。

主要グループと一次作用部位	サブグループ あるいは代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型と屋号は省略。括弧書きは混合剤)
1 アセチルコリンエステラーゼ(AChE)阻害剤 神経作用	1A カーバメート系	カルボスルファン	ガゼット
		メソミル	(ランダイヤ)
	1B 有機リン系	アセフェート	オルトラン、ジェイエース、ジェネレート、スミフェート
		ダイアジノン	ダイアジノン、(ランダイヤ)
		MEP (フェニトロチオン)	スミチオン
2 GABA作動性塩化物イオンチャネルブロッカー 神経作用	2B フェニルピラゾール系 (フィプロール系)	プロチオホス	トクチオン
		フィプロニル	トップチョイス
3 ナトリウムチャネルモジュレーター 神経作用	3A ピレスロイド系 ピレトリン系	ビフェントリン	テルスター、パンチショット
		シハロトリン	サイハロン
		エトフェンプロックス	サニーフィールド
		ペルメトリン	エンバー
		トラロメトリン	スカウト
4 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR) 競合的モジュレーター 神経作用	4A ネオニコチノイド系	アセタミプリド	カダンパワーガード
		クロチアニジン	フルスウィング、(バウンスバック)
		イミダクロプリド	タフバリア、(タフスティンガー)
		チアメトキサム	ビートルコップ

主要グループと一次作用部位	サブグループ あるいは代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型と屋号は省略。括弧書きは混合剤)
11 微生物由来昆虫中腸内膜破壊剤	11A <i>Bacillus thuringiensis</i> と殺虫タンパク質生産物	<i>B.t. subsp. aizawai</i> <i>B.t. subsp. kurstaki</i>	アイザワイ系統;ゼンターリ クルスターキ系統;トアロー、チューリサイド、デルフィン アイザワイ+クルスターキ系統;バシレックス (バウンスバック)
14 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR) チャンネルブロッカー 神経作用	14 ネライストキシン類縁体	カルタップ	
15 CHS1に作用するキチン生合成阻害剤 成長調節	15 ベンゾイル尿素系	クロルフルアズロン ルフェヌロン	ナイスイーグル (プリモ虫)
18 脱皮ホルモン(エクダイソン)受容体アゴニスト 成長調節	18 ジアシル-ヒドラジン系	メトキシフェノジド テブフェノジド	グレモ ガードワン
22 電位依存性ナトリウムチャンネルブロッカー 神経作用	22A オキサジアジン系	インドキサカルブ	ホークアイ
28 リアノジン受容体モジュレーター 神経および筋肉作用	28 ジアミド系	クロラントラニリプロール シクラニリプロール フルベンジアミド テトラニリプロール	アセルプリン ダブルトリガー スティンガー、(タフスティンガー) テトリーノ
30 GABA作動性塩化物イオンチャンネル ロステリックモジュレーター 神経作用	30 メタジアミド系 イソオキサゾリン系	プロフラニリド フルキサメタミド	テラ イザナミ

神経および筋肉
 生育および発達
 呼吸
 中腸
 タンパク質合成抑制
 未特定または非特異的

FRACコード表 日本版(2025年8月)

(芝用殺菌剤限定)

(登録農薬のうち販売されていない品目は除いています)

作用機構	作用点	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例) (剤型と屋号は省略。括弧書きは混合剤)	耐性リスク 備考	FRAC コード
A:核酸合成代謝	RNAポリメラーゼI	PA殺菌剤(フェニルアミド)	アシルアラニン	メタラキシルM	サブデューマックス	★ 複数の耐性卵菌が発生。	4
	DNA/RNA 生成 (提案中)	芳香族ヘテロ環	イソキサゾール	ヒドロキシイソキサゾール	サンブレイク、タチガレン、(ミックレート)	耐性菌未発生。	32
B:細胞骨格とモータータンパク質	チューブリン重合	MBC殺菌剤 (メチルベンゾイミダゾールカーバメート)	ベンゾイミダゾール	ベノミル	ベンレート、(ベンレートT)	★ 広範囲の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。N-フェニルカーバメートと負相関交差耐性がある。	1
	細胞分裂(作用点不明)	フェニルウレア	フェニルウレア	チオファネート	トップグラス、(トップバスター)	耐性菌未発生。	20
	スペクトリン様タンパク質の非局在化	ベンズアミド	ピリジニルメチルベンズアミド	フルオビコリド	ローバー	中	43
C:呼吸	複合体II コハク酸脱水素酵素	SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	フェニルベンズアミド	フルトラニル	(グラステン)	中～★ 複数の耐性菌が発生。	7
				メブロニル	バンタック、(モノクタジン)		
				ピリジニルエチルベンズアミド	フルオピラム		
			ピラゾール-4-カルボキサミド	チラルザミド	イカルガ		
				イソピラザム	(ティアレス)		
				フルキサピロキサド	セルカディス、(エボリティ)、(レキシコン)		
				フラメビル	(ダブルイーグル)		
				ペンフルフェン	オプティン		
				ベンチオピラド	ガイア		
			N-メトキシフェニルエチルピラゾールカルボキサミド	ビジフルメトフェン	テンダラー		
			ピリジニルカルボキサミド	ボスカリド	エメラルド、(オナー)		
			ピラジニルカルボキサミド	ピラジフルミド	ディサイド		
	複合体III ユビキノール酸化酵素 Qo部位	QoI殺菌剤 (Qo阻害剤)	メトキシアクリレート	アゾキシストロビン	ヘリテージ、(シバンバ) (シバンバPRO)、(ダイブ)、(ティアレス)	★ 複数の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。	11
				マンデストロビン	(グランサーBG)、(ディアマンテ)		
				ピラクストロビン	(オナー)、(レキシコン)		
				クレソキシムメチル	ターフトップ		
				トリフロキシストロビン	(インターフェース)、(エクステリス)、(ディケート)		
	複合体III ユビキノール酸化酵素 Qo部位	QoI殺菌剤 (Qo阻害剤)	ジヒドロジオキサジン	フルオキサストロビン	デイスアーム、(ピゴールド)		
				ピリベンカルブ	ファンターフ		
	複合体III ユビキノール酸化酵素 Qo部位	QoI殺菌剤 (Qo阻害剤)	テトラゾリノン	メチルテトラブロール	ビュアスター	高/耐性菌未発生。コード11のG143A突然変異株とは交差しない。	11A
	複合体III ユビキノール還元酵素 Qi 部位	QiI殺菌剤 (Qi阻害剤)	シアノイミダゾール	シアゾファミド	ランマンP、(グリーンワーク)	不明であるが中～高と推測。	21
				スルファモイルトリアゾール	アミスルプロム	ベスグリーン	
	複合体III ユビキノール還元酵素 Qi、Qo部位 スチグマテリン結合様式	QioSI殺菌剤 (Qi、Qo阻害剤)	トリアゾロピリミジンアミン	アメトクランジン	ザンプロターフ	QoIとは交差しない。耐性リスクは中～高と推測。	45
D:アミノ酸およびタンパク質合成	タンパク質合成(リボソーム翻訳開始段階)	ヘキサピラノシル抗生物質	ヘキサピラノシル抗生物質	カスガマイシン	タフマジック	中 耐性糸状菌、細菌が発生。	24
		グルコピラノシル抗生物質	グルコピラノシル抗生物質	ストレプトマイシン	(アグリマイシン-100)	★ 細菌病防除剤。耐性菌が発生。	25
	タンパク質合成(リボソームポリペプチド伸長段階)	テトラサイクリン抗生物質	テトラサイクリン抗生物質	オキシテトラサイクリン	(アグリマイシン-100)	★ 細菌病防除剤。耐性菌が発生。	41
E:シグナル伝達	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒスチジンキナーゼ(os-2, HOG1)	PP殺菌剤 (フェニルピロール)	フェニルピロール	フルジオキシニル	メダリオン、(メダリオンアクション)	低～中	12
	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒスチジンキナーゼ(os-1, Daff)	ジカルボキシイミド	ジカルボキシイミド	イプロジオン	ロブラル、(インターフェース)、(ユキスター)、(ロブドー)	中～★	2
				プロシミン	ダラーキック		
F:脂質合成または輸送/細胞膜の構造または機能	リン脂質合成、メチルトランスフェラーゼ阻害	ジチオラン	ジチオラン	インプロチオラン	(グラステン)	低～中 グループ内で交差耐性あり。	6
	細胞脂質の過酸化(提案中)	AH殺菌剤(芳香族炭化水素)	芳香族炭化水素	トルクロホスメチル	グランサー、(グランサーBG)、(グリーンエイト)、(ダブルイーグル)、(ディアマンテ)	低～中 複数の耐性菌が発生。	14
	細胞膜透過性、脂肪酸(提案中)	カーバメート	カーバメート	プロバモカルブ塩酸塩	ターフシャワー、フレビケールN	低～中	28
G:細胞膜のステロール合成	ステロール合成におけるC14位の脱メチル化酵素	DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤) (SBI: クラス I)	トリアゾール	ビベラジン	トリホリン	中 グループ内で耐性差が大きい。複数の病原菌において耐性が発生している。DMI間で交差耐性が発生しているとみなしたほうがよい。DMIと他のSBIは交差しない。	3
					シプロコナゾール		
					ジフェノコナゾール		
					ヘキサコナゾール		
					イミベコナゾール		
					メトコナゾール		
					ミクロブタニル		
					プロビコナゾール		
					シメコナゾール		
	ステロール合成のスクワレンエポキシダーゼ	(SBI クラス IV)		テブコナゾール	クルセイダー、バノラマ、ミラージュ、(タフシーバ)、(ディケート)、(ユキスター)		
				テトラコナゾール	ボンジョルノ、(ピゴールド)		
H:細胞壁合成	キチン合成酵素	ポリオキシシン		マクセトリフルコナゾール	マックスティーマ、(エボリティ)	耐性菌未発生。	18
	キチン合成酵素	ポリオキシシン					
P:宿主植物の抵抗性誘導	サリチル酸シグナル伝達	ベンゾチアジアゾール(BTH)	ベンゾチアジアゾール(BTH)	アシベンゾラルS-メチル	(メダリオンアクション)	耐性菌未発生	P1
	ホスホナート	ホスホナート	エチルホスホナート	ホセチル	グリーンビゼット、シグネチャー、シグネチャーエクストラ	低 耐性菌報告事例が僅かにある。	P7
U:作用機構不明	不明	ピリミジノヒドラゾン	ピリミジノヒドラゾン	フェリムゾン	(トルファン)	耐性菌未発生。	U14
	不明	テトラゾールオキシム	テトラゾールオキシム	ピカルフトラゾクス	クインテクト	耐性菌未発生。	U17
	不明(トレハラーゼ阻害)	グルコピラノシル抗生物質	グルコピラノシル抗生物質	バリダマイシン	バリダシン、(トルファン)	耐性菌未発生。トレハロースによる抵抗性誘導提案中。	U18
M:多作用点接触活性化化合物	多作用点接触活性化化合物	無機化合物(求電子剤)	無機化合物	銅	オキシンドー、キノンドー、グリーンドクターⅡ、サンヨール、ドウグリン、有機銅、(オキシラン)、(グリーンオキシラン)、(ロブドー)	有機銅にも適用 低リスクとみなしている。	M1
		ジチオカーバメート (求電子剤)	ジチオカーバメート	硫黄	イオウ、クムラス	全般的に低リスクとみなしている。	M3
				マンゼブ	ダイセンターフ、(クロステクト)		
				プロビネブ	プロテクメート		
				チウラム	チウラム、(ダコグリーン)、(ベンレートT)		
				ジラム	モドクター		
		フタルイミド(求電子剤)	フタルイミド	キャプタン	オーソサイド、(オキシラン)、(グリーンオキシラン)		M4
				TPN	ダコニールターフ、ダコニール1000、(ダコグリーン)		
		ビスグアニジン (細胞膜攪乱剤、界面活性剤)	ビスグアニジン	イミノクタジン酢酸塩	カシマン、(パッチバスター)、(モノクタジン)		M7
				イミノクタジアルベシル酸塩	(ボディブロー)		

記号と一桁の数字による組み合わせで、例えばM11C0を挿入してM 01のように表記することもあります。

国内で使用されている化学殺菌剤の最新の分類はJFRACホームページ(https://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/books/FRAC_code_20250603.pdf)で確認できます。